



へちま北野品づくりに参加する
神宮寺中央生活学校の面々



八幡神

★富樫武治と神宮寺の野球 東京都文館中学と東京数学院で野球を身につけた富樫は、明治二十九年七月、十七歳で坊田小学校（現南橋岡小）の代用教員となった。三十五年神宮寺小に転任、のち横手中校長となる桜田鉄之助と協力して地域の野球普及に努めた。大正八年、神宮寺で社会人の全県大会を催し、2-1で秋田電氣KKを降した地元神宮寺クラブが優勝している。全国にさきがけ全県少年野球大会が開かれたのは大正十年で、三、四回大会は神宮寺小が尋常科で連覇、五回大会では高等科が優勝、六回から三年連続準優勝と輝かしい記録を残している。昭和三年、高等科チームが全国大会に出場した。戦後復活第一回大会の優勝も神宮寺中（現平和中）で、以後も二回優勝している。

少年野球発祥の地 町の先覚者に富樫ツル（明治2、昭和12）がいる。大曲花火大会の創始にもかかわった篤農家富樫明治郎の妻で、小学校教育の充実に生涯を捧げた女性だが、別名を「野球バアさん」。少年野球の試合には必ずネット裏にその人の姿を欠かさなかったという。

神岡町は「少年野球発祥の地」を自負する。町職員の名刺にも、イラストと一緒にその文字が刷り込まれたものがあるほどに、町民はこだわる。本県の野球史上最初の公式試合は、明治三十三年六月八日の第一回知事杯争奪大会、通称「チャレンジカップ」で優勝は桜田鉄之助の率いる南橋岡倶楽部だった。投手は神宮寺出身の富樫武治で、ホームランも打っている。神宮寺の野球は、この富樫武治によって鍛えられ、ひろめられた。

神宮寺野球の伝統は、昨年で十二回を数えた全県五百歳野球に引き継がれる。厚生大臣杯が贈けられており、昨年は参加五十一チームに達するなど、年をおって人気が高まり、三日間の試合に選手千三百人が参加した。町宮球場については、近い将来に照明設備が計画されている。町民の熱気に支えられ、昨年の全県学童野球では神宮寺小が準優勝を果たした。

清酒&へちま 総合発展計画は今年が後期五カ年の初年度。西部地区の圃場整備、神宮寺バイパスの建設に伴う都市計画、神宮寺・北神岡小学校の新築と簡易

水道の付設が事業化される予定。町の水道普及率は二七・六%で全県六十二位と低い。地下水の質の良いのがかえって仇となり、普及が遅れてきた。

南外村、六郷町、中仙町など水道普及率の低い町村に共通するのは、造り酒屋が多いこと。即、水質の良さの証明で、神岡町とて例外ではない。町内に「福之友」「刈穂」の二メーカーがあり、いずれも地酒として通の間に評判が高い。この酒蔵との契約栽培により、酒造好適米「美山錦」の作付けは湯沢市に次ぐ。

ほかに特産品で目新しいのがサトイモと「ほしっぱ」。後者は北橋岡農協が特殊な手法を開発して製造、ぬるま湯に五十分浸すだけで、青い色を保った大根の干し葉が得られるのだ。

なかんづくホープは、同町中央生活学校のメンバー十五人が栽培するへちまを原料に、販売までを自らでする化粧品。ブランド名は「シャン」（ドイツ語で美人の意）。製品は乳液クリーム（一、二八〇円）とスキンローション（九八〇円）の二種類だが、昨年はそれぞれ二千二百個と千七百個の限定販売を売り切った。

大豆や飼料作物の転作にも力を入れていく。飼料作物は、同町に県の畜産試験場が立地していることが背景にある。前町長は獣医師だった。昭和五十八年、町長自ら中国を訪れて梅花鹿を導入し、漢方強壮剤として珍重される「鹿茸」の生産を計画したこともある。ここと新潟にしかない梅花鹿は現在十四頭、笹倉公園内の小動物舎に、鳥骨鶏（天然記念物）やホロホロ鳥、孔雀、山羊などと一緒に飼育されている。

園内にはスカイサイクルなどのプレー

広場、パーベキューハウス（各自持ち込みでガス使用料三百円）があり、三階展望台からは町営牧場での牛の放牧が眺められる。隣接して笹倉スキー場も。

中川原地区には桜と花菖蒲が咲くコミニティー公園がある。一方下川原地区では公共団地が整備中で、すでに町民体育館、農村改善センター、B&G神岡海洋センターがあり、今後は生涯学習センターを建てて「文教プラザ」を目指している。

ふるさと 仙南村

村営キャバレーとハトムギ 県内でもそう知名度が高いと思われない仙南村の名を、一躍全国に知らしめたのは、村がふるさと創生資金で建てた「フォーラムハウス」（愛称「遊遊」）のおかげだろう。全国的には「村営キャバレー」で有名になった。田んぼの真ん中にぽっかり出現した白亜の建物で、一億円そっくりどころか、二千万円もするカラオケ装置などで、別途三千万円もの村費を注ぎ込んだ。オープンには昨年四月二十七日、しばらくは全国からの視察者、マスコミの取材でにぎわったが、最近はやっとフィーバーもおさまり、今後の在り方をとっくり検討する時期を迎えたようだ。

村唯一の遊興？施設とはいっても、半分は、十種類の運動器具を備えたトレーニングルームである。会員登録をするのに二千五百円で使えるが、一回利用料が三百円では「ちと高い」という声もきかれ、利用度はいまいちのようだ。仙南村の名物は、なにも「遊遊」ばか